



とうきょうすくわくプログラム活動レポート

「自然物と同じ色を作る」(2歳児・4回目)

しおどめ保育園京急蒲田駅前では、東京都の「とうきょうすくわくプログラム」を通して、子どもたちが身近な環境にふれながら、感じ、考え、試してみる体験を大切にした活動を続けています。

2歳児の4回目となる今回は、「自然物と同じ色を作る」をテーマに、落ち葉や花びらなどの身近な自然物をよく見ながら、絵の具を混ぜて色づくりを行いました。少しずつ色を足し、見比べ、試してみる中で、同じように見える色にも違いがあることに気づく姿が見られました。自然物を手がかりに、色の変化を楽しむ探究の時間となりました。



活動のために準備した素材や道具、環境の設定



育てた植物や散歩時に見つけた草花の写真／植物図鑑／はないろいろかくれんぼ／どんなはながさく？／どんないろがすき／スモック／色水カフェドロップ／絵の具／水

活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

- ・育てた花の写真や散歩中に見つけた草木の写真を見て、「これはあか」「しろもある」と色を言葉にする姿が見られた。
- ・用意された絵の具を見て「むらさきがない」と気づいたり、保育者がピンクは白と何を混ぜるとできるか尋ねると、「あか」と答える子がいた。
- ・保育者が見本として赤と青を混ぜると、色が変わる様子に驚いた表情を浮かべていた。
- ・写真の中から作りたい花を選び、スポイトでさまざまな色を一気に混ぜる子や、一色ずつゆっくり入れて様子確かめる子がいた。
- ・ドリッパーを使い、ポットで水を少しずつ入れながら、色水が落ちてくる様子をじっくりと観察する姿が見られた。
- ・写真の花と同じ色の色水ができると、「ピンクできた」と言葉にし、写真の花を指さして「おなじいろだよ」と嬉しそうに知らせていた。
- ・紫を作った子に、何色と何色を混ぜたのか尋ねると、「あかとあお」と答えていた。
- ・最後に自分で作った色に黒色を混ぜると、「まっくろになっちゃった」「(さっきの色に)もどれー」と言葉にしていた。



先生たちのふり返し

- ・自分たちで育てた花やよく行く公園の写真を使うことで、自然物へ親しみを持って活動に参加することができていた。
- ・色を混ぜると違う色ができることに対してスポイトで数滴垂らして混ぜるだけでも色の変化にすぐに気づく子もいた。
- ・「またやりたい」「くるくるたのしかった」と話し、集中して最後まで取り組むことができた。



子どもたちの姿から見えた“学び”

落ち葉や花びらなどの身近な自然物を用い、「同じ色を作ってみよう」と声をかけながら、絵の具を混ぜる活動を行った。

自然物をよく観察し、画用紙と見比べながら少しずつ絵の具を足すことで、色の変化に気づけるようにした。

保育者が色を混ぜる様子を示しながら関わることで、子どもたちは安心して活動に参加し、自分なりに試す姿が見られた。